

アディダス・カップ2019

第30回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 見所

女子組手無差別級（選抜7・推薦3名）

2019年11月23日（土）夜 後楽園ホール 主催 日本テコンドー協会

前根奏子（横浜鶴見TC）、3連覇に挑む！

対抗 新人の武内 晶（横浜市立大学体育会）

ベテランの市坪 愛（東京江東TC）

本種目は「2019年度フルコンタクト・テコンドー女王」を決定する。

本命は、3連覇を狙う前根奏子（横浜鶴見TC）である。

本年、TBSの番組にも二度出演し、JTA所属選手の中で、最も注目されている選手である。

前根は、女子選手の中では他者を寄せ付けない根性の持ち主。勝利への執念も群を抜いている。
つまり精神力では他者を圧倒しているのだ。

もちろん技術も十分、蹴りの名手でもある。とくに驚異的な柔軟性に基づく打点の高い躍落とし蹴りは光っている。
問題は、スタミナ。

パナソニックに就職して3年目。激務の総合職終了後、練習するため練習量が少ないのでスタミナに不安がある。
2回戦から決勝戦迄、挑戦する選手が延長戦迄、粘れば勝機はある。

対抗は、武内 晶（横浜市立大学体育会跆拳道部）である。

河明生会長が「武内は他の女子選手とは骨格が違う」と注目されていた（西本同様、市大出身者は骨に違いがある）。

恵まれた体格から放たれる蹴り技は、軽量級の選手が多い女子の中では脅威。

スタミナ力も、大学体育会という好環境にあり、女子選手の中では高い。

問題は、経験不足。後楽園ホールという格闘技の殿堂で十二分に力を発揮できるか否かが鍵となろう。

ベテラン・市坪 愛（東京江東TC）にも注目したい。

市坪は、過去、3回も全日本FT大会女子無差別級を制した名選手。

総見での動きも機敏で良い。

全日本FT大会8年連続出場というキャリアは重い。

精神面では常に充実しており、好不調の波がないので安定した実力発揮を期待できる。

機敏なフットワークからの後横蹴りは、スピード、威力共に申し分ない。

問題は、前根同様、スタミナ。

人材開発会社ジェイックに就職して6年目。順調に昇進し、多忙の中、限られた時間を惜しみながら練習している。

本戦でスタミナに優れた若手に粘られ、延長戦になると動きが止まる可能性がある。

前根、市坪、武内、そしてその他5名の選手すべてが横浜市立大学体育会テコンドー部出身及び現役である。

女子選手に関する限り、「横浜市立大学体育会テコンドー部黄金期」といえる。その名に恥じない試合を期待したい。



前根奏子

応援してくださる方々にいい試合をお見せできるよう、本番まで出来る限りの努力を続けたいと思います。皆さま、当日はよろしくお願ひいたします。



市坪愛

今年も全日本大会に出場させていただくことに感謝し、観客の方々にテコンドーの魅力を存分に感じていただけるようなファイトを見せられたらと思います。



武内晶

初めての全日本大会でとても緊張すると思いますが平常心を保って自分の最大限の力を出したいです。満足の行く試合ができるよう、頑張ります。